

第3学年保健体育科学習指導案

1 単元 「バレーボール」

2 指導観

- バレーボールは、ネットを合さる2つのチームが、空中にあるボールをつないで攻撃や誘いがあ。直接の阻害は、小中学校の授業で取り扱われ、初心者や中高年の人々にもラールの質や大きさ、場所やレクリエーションの工夫により、バレーボールは幅広い普及している。このソフトバレーボールは、夏にルクリエーションの工夫により、バレーボールは幅広い普及している。このソフトバレーボールは、夏にルクリエーションの工夫により、バレーボールは幅広い普及している。
- 本学級の生徒は、体育活動にAの生徒が71%であった。思考・判断の観点では、自己の課題を見つけて、それを解決するために自分にあったコースを選択し、学習している。課題に適した練習方法を工夫し、計画をたてている。
- 指導に当たっては、個人やチームの課題を把握させ、自分にあったコースを選択し、学習している。課題に適した練習方法を工夫し、計画をたてている。

3 単元目標

観 点	評 価 規 準
運動や健康・安全についての 関心・意欲・態度	○バレーボールの特性に興味・関心をもち、意欲的にバレーボールの楽しさを味わう。
運動や健康・安全についての 思考・判断	○ルールやマナーをまもり、健康・安全に留意して活動している。 ○自己の課題を見つけ、それを解決するために自分にあったコースを選択し、学習している。 ○課題に適した練習方法を工夫し、計画をたてている。
運動の技能	○サービス、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスなどの基本技能を使ってゲームを行うことができる。 ○個人技能や集団技能を生かし、高まりのあるゲームをすることができる。
運動や健康・安全についての 知識・理解	○バレーボールの特性や学習の進め方を理解し、基本的な技術の構造やルールを説明することができる。

4 単元の指導・評価計画 単元の配当時間：12時間

※「指導上の留意点」における①②③：3つの授業改善のポイントに係る手だて

①「教えること」と「学ばせること」を区別した手だて

- ② 学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切に手だて
 ③ 学習したこと「まとめ」と「ふり返り」を徹底した手だて
 ●：家庭学習の課題を生かした手だて
 ○：一般的な手だて

※「評価規準（評価方法）」における観点

関：運動や健康・安全への関心・意欲・態度

思：運動や健康・安全についての思考・判断

技：運動の技能

知：運動や健康・安全についての知識・理解

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	○ オリエンテーションを通してバレーボールの特性を理解するとともに、技能の習得状況を把握する。 ・バレーボールの特性及びルール ・チーム編成	③ 1・2年時の学習をふり返らせ、教科書を利用してバレーボールの特性や学び方、ルールを説明する。 ○ 部活動や小学校時の経験の有無を考慮し、なるべく力が均衡したチーム編成をする。	関 資料等を参考にバレーボールの特性を理解しようとする。 (様相チェック) 知 バレーボールの特性や学び方、ルールを知っている。 (発言チェック、プリント分析)
2	3	○ 個人的技能を復習し、集団的スキルへ移行させ、ゲームを楽しむ。 ○ 個人的技能 サービス オーバーハンドパス アンダーハンドパス ↓ ○ 集団的スキル レシーブ トス スパイク	① 教師の一斉指導とチームキャプテン（経験者生徒）の助言で練習・活動を進めるよう指示する。 ① 練習の成果を確認するためにゲームを行わせる。チームノートで自分の得意な技能、不得意な技能を把握させる。 ① ゲームをスムーズに行えるようルールや審判の仕方を説明し、支援する。 ② チームごとに練習計画を立てさせ、個人にめあて、チームにめあてを明確にしてチーム練習をさせる。(チームノートの活用) ● α ノートを活用させ、技能の名称・ルール・審判のハンドシグナルなど復習させる。	知 練習のねらいや練習内容・方法が理解できる。 (発言チェック、ノート分析) 関 チームで協力して楽しさや喜びを味わおうとする。 (様相チェック) 技 個人的技能・集団的スキルを習得することができる。 (活動内容チェック、技能テスト)
3 本時	1	(1) 自分にあった練習コース ○ サービス・パスコース、スパイクコース、セッターコースから選択する。	① コース説明は、バレーボール部員に実演させ、分かりやすく説明する。 ② 選択する際は、チームノートで自分の得意な技能、不得意な技能を確認させる。 ② 学習プリントを用い、一人一人の技術レベル、チーム内でのバランスや役割をチームみんなで考えさせるよう配慮する。	思 お互いにアドバイスし合いながら、自分にあった練習コースを選択している。 (ノート・プリント分析、活動内容チェック、発言チェック)
	3	(2) コースで練習し、そこで学んだ技能を自分のチームの練習やゲームに生かす。	① それぞれのコースで教師の一斉指導と経験者生徒の助言で練習・活動を進めさせる。 ① コース別練習のあとチーム練習やゲームを行い、コースで学んだことをチームに還元するよう支援する。 サービス・パスコース T2 スパイクコース T1 セッターコース T3	技 コース別の技能を習得することができる。 (活動内容チェック)
4	4	○ チームの特徴や対戦相手に応じた作戦を工夫しながら、ゲームを楽しむ。 ・リーグ戦	① チームノートを活用させ、作戦を立てゲームを行い、作戦を立て直し、新たな作戦をゲームで生かす。 ③ 自分たちでゲームを運営していく意識を高め、協力し、役割を果たす必要性を理解させる。	関 チームにおける自分の役割を自覚した活動ができる。 (様相チェック、ノート分析)

5 本時 平成22年9月 日(曜日)第 校時 計画12時間中の5 運動場にて

(1) 本時の主眼

○ 自分に最もあった練習コースを選択して、練習に取り組む。

(運動や健康・安全についての思考・判断)

(2) 本時の指導観

生徒は、前時までにチームごとに練習計画を立て、個人のため・チームのためを明確にしてチーム練習をし、個人的技能や集団的技術をも身につけてゲームを楽しんだ。また、個人的技能の習得が不十分で、サービスが入らない生徒やパスが思うようにコントロールできない生徒がいる反面、トスやスパイクといった集団的技術を身につけ、高度な技術を学習し、身につけたいという生徒も多い。

そこで本時では生徒一人一人のニーズに応じた練習コースを設定し、自分に最もあったコースを選択させ、次回からのコースを別学習の準備をさせる。そのためにも、まず、コースを発表し、それぞれどのコースにするかを話し合わせる。その際、学習プリント「コース選択にあたって」を用いて、ビデオ教材、模造紙を参考に各チームに別れ、誰がどのコースを選択し、学習するかを話し合わせる。その前提に、一人一人の技能レベル、チーム内での役割や役割をチームみんなで考え決定するよう十分に配慮する。最後にそれぞれのコースを別れ、選択したコースで目標をもって練習に取り組むことができるようにする。

(3) 準備

教師…バレーボール、コース別説明模造紙、ビデオ教材、学習プリント
 生徒…筆記用具、チームノート

6 過程

学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準(評価方法)	形態	配時
1 準備体操を行う。 ・号令走・ラジオ体操、 ・補強運動	○ 大きな声で元気よく行うようにさせる。		全体	7
2 あいさつ、出欠確認、健康観察を行う。	○ T2, T3は巡視し、健康観察を行う。			2
3 本時のめあてと流れの確認を聞く。	① 本時のめあてと学習の流れを確認し、学習の見通しをもたせる。			2
めあて：自分に最もあった練習コースを選択しよう。				
4 コース説明を聞く。 ・サービス・パスコース ・スパイクコース ・セッターコース	○ バレーボール部員による実演やビデオ教材、模造紙を参考にそれぞれの練習コースを生徒にわかりやすく説明する。			4
5 チームに別れ、コース選択を行う。	① チームノートで自分の得意な技能、不得意な技能を確認させる。 ② 学習プリントを使って、自分にあったコースを選択できるようにさせる。 ○ チームでの話し合いによりチーム内でのバランスや役割をみんなで考えさせる。 ○ T2, T3はチームを巡視し、十分に話し合い活動ができるように助言する。	思：お互いにアドバイスし合いながら、自分にあった練習コースを選択している。(ノート・プリント分析、活動内容チェック、発言チェック)	チーム	15
6 コースに別れ、説明を聞き、練習を開始する。 ・サービス・パスコース T2 ・スパイクコース T1 ・セッターコース T3	○ それぞれのコースで練習・活動を進めさせる。 ① 選択したコースで目標をもって練習に取り組むことができるようにする。 ○ 使わないボールを片づけさせる等、安全面に留意させる。		コース	15
7 本時のまとめと次時の学習の進め方を確認する。	③ コース内での個人の目標を明確にさせるよう発問を行う。 ③ 本時のまとめと次時のめあてをチームノートの記入し、本日に提出させる。		全体	5